

日本語日本文学専攻（博士後期課程）

教育基本方針

甲南大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程では、日本語学、日本語教育学、日本古典文学、日本近現代文学の各研究領域に関し、修士課程において養われた日本語・日本文学の分野における研究能力と、修士課程において培われた高度の専門性が求められる職業において必要とされる卓越した能力を基盤として、自立した独創的な研究活動を展開する能力を有する、社会に貢献しうる優れた研究者または高度専門職業人の育成に努めます。また、組織的な研究指導体制のもとで、広い視野に立った学識と高い倫理観を身につけた学生を育てるべく、建学の精神を生かした人物重視の教育を行い、博士（文学）の学位授与に導きます。

修了認定・学位授与の方針

甲南大学大学院は、大学院学則第1条に定める、甲南大学の教育精神に基づいて育成された一般的及び専門的教養を基盤として、学術の理論と応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、人類文化の向上発展と社会福祉の増進に貢献することを目的としています。

人文科学研究科日本語日本文学専攻においては、本研究科及び本専攻の教育基本方針のもと、下記の能力・資質を身につけ、社会及び学術の発展・向上に寄与できる人材の育成を教育目標とします。課程の修了にあたっては、本研究科の定める期間在学し、本専攻が定める修了必要単位を取得のうえ、論文等の審査及び最終試験に合格した者に博士（文学）の学位を授与します。

【博士後期課程】

- (1) 日本語・日本文学の分野における高度な研究能力を身につけ、独自の研究方法に基づき、新規性、進歩性、有用性、独創性、発展性、資料性等において優れた特徴を有する博士論文を執筆する能力を有しています。
- (2) 研究者又は高度専門職業人として日本語・日本文学研究の発展に貢献する能力を持ち、高い倫理観を備えています。

教育課程編成・実施の方針

人文科学研究科日本語日本文学専攻では、学位授与の方針に掲げる能力・資質等を修得させるために、必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習を適切に実施します。また、学位論文等の作成に対する指導を行います。加えて、修了認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系的・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を検証することにより、組織的かつ定期的に見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、評価については以下のように定めます。

【博士後期課程】

- 1) 教育内容
 - (1) 日本語学、日本語教育学、日本古典文学、日本近現代文学の各研究領域に関する研究者又は高度専門職業人として必要な自律的な研究活動を推進できる研究能力を習得するため、組織的な研究指導体制のもとで、専門的知識・技能を習得する教育課程を編成し、実施します。
 - (2) 「日本文学特殊研究演習」や「日本語学特殊研究演習」において、広い視野に立った学識と高い倫理観を身につけた学生を育てるべく、人物重視の教育を行います。
- 2) 教育方法
 - (1) 博士後期課程の教育は、1)に掲げた教育内容を、授業及び研究指導によって行います。
 - (2) 授業は、講義及び演習により実施します。
 - (3) 研究指導は、日本語学特殊研究演習、日本文学特殊研究演習により、1年次から継続して実施します。
- 3) 評価
 - (1) 単位の認定については、大学院学則第9条に基づき、筆記試験、口述試験、報告等及び各科目のシラバスに定める方法によって学期末又は学年末に評価します。
 - (2) 博士論文審査及び最終試験は、本専攻の定める審査基準に基づく方法により行い、その結果に基づき合否を判定します。

カリキュラムマップ		
修了認定・学位授与の方針（DP）		
(1)	日本語・日本文学の分野における高度な研究能力を身につけ、独自の研究方法に基づき、新規性、進歩性、有用性、独創性、発展性、資料性等において優れた特徴を有する博士論文を執筆する能力を有しています。	
(2)	研究者又は高度専門職業人として日本語・日本文学研究の発展に貢献する能力を持ち、高い倫理観を備えています。	
到達目標		
	対応する修了認定・学位授与の方針(DP)の番号	
A	日本文学に関する先行研究を踏まえた上で、自らの問題意識を明らかにすることができるとともに、目的に応じた精緻な文献・資料の調査能力や、論理的に思考し、独自の考察を展開する能力、研究の成果を適切な文章で表現する能力を有している。また、資料調査の場や学会などで周囲と協調しながら研究を企画し進めていく調整力を有している。	(1)
B	日本文化の幅広い教養を有しており、広い視野から多角的に日本文学に関する研究を行うことができるとともに、学際的な知見にもとづく応用力を有している。	(2)
C	日本語学に関する先行研究を踏まえた上で、自らの問題意識を明らかにすることができるとともに、目的に応じた精緻な文献・資料の調査能力や、論理的に思考し、独自の考察を展開する能力、研究の成果を適切な文章で表現する能力を有している。また、資料調査の場や学会などで周囲と協調しながら研究を企画し進めていく調整力を有している。	(1)
D	日本文化の幅広い教養を有しており、広い視野から多角的に日本語学に関する研究を行うことができるとともに、学際的な知見にもとづく応用力を有している。	(2)
E	自らの専門的な研究活動により培われた課題設定・解決力を活かし、産業界との協働を通して社会に貢献できる倫理と行動力を有している。	(2)

授業科目表（人文科学研究科 日本語日文学専攻（博士後期課程）） [2026年度(令和8年度)の入学生に適用]

授業科目名	単位数	到達目標				
		A	B	C	D	E
選択必修科目 (日本文学演習)	日本文学特殊研究演習Ⅰ	4	○			
	日本文学特殊研究演習Ⅱ	4	○			
	日本文学特殊研究演習Ⅲ	4	○			
選択必修科目 (日本文学研究)	日本文学特殊研究Ⅰ	4		○		
	日本文学特殊研究Ⅱ	4		○		
選択必修科目 (日本語学演習)	日本語学特殊研究演習Ⅰ	4			○	
	日本語学特殊研究演習Ⅱ	4			○	
	日本語学特殊研究演習Ⅲ	4			○	
選択必修科目 (日本語学研究)	日本語学特殊研究Ⅰ	4				○
	日本語学特殊研究Ⅱ	4				○
共通科目	ジョブ型研究インターンシップ	1				○

[所定の単位]

選択必修科目より、演習4単位以上を含め、計8単位以上を修得すること。